

HIROSHI TAKAYAMA  
*plays*

音楽は  
自由をめざす  
Vol.5

# ARETHA FRANKLIN

一人芝居“劇励”公演

## 高山 広の「アレサ・フランクリン物語」

[演目]

天国のスタジオ〜ルーサー・ヴァンドロス物語

デイ・ドリーミング〜アイ・ドリーム・ア・ドリーム〜アレサ・フランクリン物語

出演

高山 広

案内

湯川れい子  
吉岡正晴

2019年2月2日(土) 成城ホール

開場 13:30 / 開演 14:00

料金(全席指定)

一般 2,000円 / せたがやアーツカード 世田谷パブリックシアター友の会 1,500円(前売りのみ) ※未就学児入場不可

チケット取扱…世田谷パブリックシアターチケットセンター 03-5432-1515 (10:00~19:00) **2018/12/4(火)発売開始**

PC・スマートフォン <https://setagaya-pt.jp/tickets/howtobuy.html> 携帯 <https://setagaya-pt.jp/m/>

お問い合わせ…せたがや音楽プロジェクト事務局 03-6804-9710 株式会社アイラブ内 <https://www.facebook.com/setagaya.music/>

主催 せたがや音楽プロジェクト / 共催 公益財団法人せたがや文化財団 音楽事業部 / 後援 世田谷区

illustration … 北村範史

一人芝居“劇励”公演

## 高山 広の「アレサ・フランクリン物語」

2019年2月2日(土) 成城ホール 開場13:30/開演14:00

音楽は  
自由をめざす  
Vol.5

### 「クイーン・オブ・ソウル」の物語を描く、渾身の一人芝居!

2018年8月16日に逝去した「クイーン・オブ・ソウル」ことアレサ・フランクリンを追悼し、一人芝居『アレサ・フランクリン物語～アイ・ドリーム・ア・ドリーム』が、来る2019年2月2日(土)成城ホールで上演される。

これは一人芝居の達人、高山広がアレサの人となりや研究し、独特の世界観でアレサ物語を、一人何役も演じながらパフォーマンスするというもの。演目は他に、アレサの盟友でもありプロデュースもしたルーサー・ヴァンドロスを描く『ルーサー・ヴァンドロス物語～天国のスタジオ』。

『ルーサー物語』は、2006年7月1日(ルーサーの命日)、目黒ブルース・アレイで、ルーサー逝去一周年イヴェント「ソウル・サーチン～ルーサー・トリビュート」の中で演じられたもの。また、『アレサ物語』は、2007年3月26日(誕生日の翌日)六本木の今は亡きスイート・ベイジルで行われ

た「ソウル・サーチン～アレサ・トリビュート」で演じられたものの再演。初演時は多くの観客の笑いと涙を誘い、感動に包まれた。しかし今回、アレサの2018年8月の急逝にともない、新たにストーリーが書き替えられた。

高山広の「ワンマン・プレイ(一人芝居)」とは、演者一人が様々な役を演じて、ストーリーを展開するもの。落語にさらに大きな動き、アクションなどが付き、そのうえ今回は音楽も流れる。高山は人間だけでなく、さまざまな地球上の生物・物体にさえ成り移る。アクター高山広は渾身の力を込めて、ルーサー物語、アレサ物語を熱演する。

ルーサー・ヴァンドロス・ファン、アレサ・フランクリン・ファン、そうしたソウル・ミュージック・ファン、さらには一人芝居というものに興味ある方は、ぜひ一度ごらんいただきたい、絶対おすすめの見目だ。(文・吉岡正晴)

## PROFILE

### 高山 広 HIROSHI TAKAYAMA



宮城県栗原市出身。1992年からスタートした数本立てショートストーリーの一人芝居シリーズ『高山広のおキモチ大図鑑』は、人間や動物、昆虫といった生物はもとより、ありとあらゆるモノや概念にまでなりきり、その「キモチ」や機微を描いてゆくという作風で「一人芝居の概念を変えた」と評されている。作品数は約700本を超え、数秒の超短編から2時間を越える超大作まで現在もライブのたびに増え続けている。2011年4月以降は、「劇」を通して被災地を励ますお手伝いを、と復興支援お手伝い公演「劇励」を立ち上げ、劇場以外にも学校、飲食店、ブティック、オフィス、野外…等々各地各所で公演を開催し、募金活動や被災地への支援を呼びかけている。また、俳優として、NHK朝の連続ドラマ『あぐり』『すずらん』『天花』、舞台『ピギン・ザ・ピギン』、ミュージカル『火の鳥』など多数の作品に出演。

### 湯川れい子 REIKO YUKAWA



音楽評論家・作詞家。東京都生まれ、山形県米沢育ち。早くからエルヴィス・プレスリーやビートルズを日本に広め、独自の視点によるポップスの評論・解説を手がける。また作詞家としても活躍。代表作には『ランナウェイ』『センチメンタルジャーニー』『六本木心中』『恋におちて』などがある。また近年では、環境問題などを含め、次世代の育成にも力を注いでいる。

60年代からいち早くアメリカの音楽を日本のマーケットに紹介。1964年にアメリカ、イギリスに取材で訪れてからは、多くのミュージシャンやレコーディングの現場を訪れて、音楽専門誌やレコード解説に健筆を振るって来た。また、ラジオでは「全米トップ40」を1972年から1986年まで放送。エルヴィス・プレスリー、マイケル・ジャクソン、ローリング・ストーンズ、マドンナなど、数多くのアーティストにインタビューして、現在に至っている。

### 吉岡正晴 MASAHARU YOSHIOKA



音楽ジャーナリスト、音楽評論家、翻訳家、文筆家、DJ。ソウル・ミュージック、ブラック・ミュージック、ディスコを含むダンス・ミュージックを専門とする。著書に『ソウル・サーチン～R&Bの心を求めて』(音楽の友社、現在一部電子出版でリリース)。訳書に『マーヴィン・ゲイ物語～引き裂かれたソウル』など。毎月第一木曜「ナイト・サーチン」(ミュージックバード、22時～、生放送中)。ウェブ「ソウル・サーチン・ブログ」、同名イヴェントなど運営。毎月第3水曜日、新宿カブクラウンでゲストを迎えるトークイヴェント「ソウル・サーチン・ラウンジ」開催。